

# 佑啓

ゆうけい

発行者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

## 佑啓会の語り部に

長良 幸男

就活をしていた私に親戚が紹介してくれたのは、同市内にある千葉県社会福祉事業団でした。そこで出会った先輩職員が里見理事長で、かれこれ四十五年近くの昔話になりますがお付き合いください。

私が理事長をされるとも聞き、尊敬するお二人です。「是非手伝わせてください」と即答しました。施設の指導員しか知らない私にとって施設建設は、話が大きすぎてなかなかイメージがつかめませんでした。第一にクリアしなければならぬ施設用地の取得では、地権者や業者の大人の事情や、昔からの因縁、忖度などに阻まれ、何年も暗中模索状態が続いたので、ついには周りに弱気な空気が流れ始めました。しかし、理事長の「なんとしてもオープンする」という執念とも言える強い意志で用地も決まり、平成四年に法人認可が下りたのです。これで施設建設に着手できることになりました。

更生施設でした。実は理事長が当時の施設長と懇意であったことから、研修の話をまとめてきてくれたのでした。一時間ほど車で走るとその施設は田園地帯にありました。日中活動は「働くこと」を全面に押し出し、様々な作業種に取り組み、販売にも熱心でした。そこは事業団も同じでまた、ふる里学舎でも同様な構想でしたので、お世話になる上でその理念に共感を覚え、ました。日中は指導員として農作業をする傍ら、空き時間や休日に事務長さんから事務・会計の指導を受けるという日々でした。何しろ下地がなく一からでしたから、事務長さんのご苦労がいかほどのものだったか。

そんな素人が一年後、手応えを得られたのは「いつでも聞きにいらいっしやい」と言っておきながら、穏やかな事務長さんのお陰です。結局開所後もお言葉に甘え、何度も押しかけてはご教示いただきつれ、その先輩施設は、ふる里学舎にとって目標とする施設の一つになりました。

十年一昔といえます。オープン当初は、環境整備の毎日でした。開墾作業や芝張りなどは海戦術で臨みましたが、これは安易に業者任せにせず、自分たちでやってみるといって、現在でも脈々と引き継がれている佑啓会の伝統です。あるときは作業棟の屋根の再塗装、フロアリングの床張り、またあるときは遊歩道のインターロッキング敷き、等々。そして汗を流したあとは、お決まりの反省会と言う名の飲み会も欠かされませんでした。この頃から厨房も含め、職員全員参加で取り組むという姿勢が培われたのだと思います。

通所部を開設し、女性棟の増築までは順調に進みましたが、和田浦への誘致による進出で、またもや産みの苦しみが待っていました。しかし理事長と三股専務が何度も何度でも現地へ足を運び、地元住民や行政への説明・調整に奔走し開所に漕ぎ着けたのです。和田浦のような入所施設には大勢の職員が必要になります。当時から事業展開が早かったため、課題は常に人材育成と人材確保となり、しかも正職員の必要があるので一層苦慮しました。措置費時代の職員配置は、定員〇名には正職員〇名と決まっていた、現在のように入人数に幅もなければパート職員に置き換えることもできません。よって、事前に採用予定は〇名と決めて採るので、急な退職者が出て困ります。そうかと言って多めの確保は、人件費を膨れさせるのでそこが難しく、慌てて中途採用をした年もありました。

私の配属先は百名の知的障害者入所更生施設で、四十名ほどの職員がいましたが、大量採用の私の同期はその三分の一を占めたので、ずいぶん心強く早々に職場に馴染んでゆきました。その頃理事長は別の寮の主任でしたが、二人で飲みに出かけては色々話を聞いてもらっていました。

そんな職場で十年が過ぎた頃、理事長から民間施設の建設の話が聞きました。私が理由を尋ねると、「ここにいては、自分が理想とする福祉ができないから自分で始める」という返事でした。その頃の理事長は、事業団で十二分にその力を発揮し、新たな事業や取り組みで実績を上げていたので、退職して新たな事業を興すということに大変驚きました。しかも話はそれだけではなく、「お前も一緒にやらないか」と誘っていたのでした。新法人では前園長の古川弘先

生が理事長をされるとも聞き、尊敬するお二人です。「是非手伝わせてください」と即答しました。施設の指導員しか知らない私にとって施設建設は、話が大きすぎてなかなかイメージがつかめませんでした。第一にクリアしなければならぬ施設用地の取得では、地権者や業者の大人の事情や、昔からの因縁、忖度などに阻まれ、何年も暗中模索状態が続いたので、ついには周りに弱気な空気が流れ始めました。しかし、理事長の「なんとしてもオープンする」という執念とも言える強い意志で用地も決まり、平成四年に法人認可が下りたのです。これで施設建設に着手できることになりました。

ふる里学舎の開所から三十年を迎えました。建物が黄色の頃か



ふる里学舎建設風景

オープン当初は、環境整備の毎日でした。開墾作業や芝張りなどは海戦術で臨みましたが、これは安易に業者任せにせず、自分たちでやってみるといって、現在でも脈々と引き継がれている佑啓会の伝統です。あるときは作業棟の屋根の再塗装、フロアリングの床張り、またあるときは遊歩道のインターロッキング敷き、等々。そして汗を流したあとは、お決まりの反省会と言う名の飲み会も欠かされませんでした。この頃から厨房も含め、職員全員参加で取り組むという姿勢が培われたのだと思います。



オープン当初の環境整備の様子

次の十年間では、行政がサービスの利用先や内容などを決めていた「措置制度」から、障害のある方の自己決定に基づきサービスの利用ができる「支援費制度」に変わりました。一方、措置費は月の初日の人数で収入額が決まりその月に入金したので、施設側にもその体制の変更を迫られ、頭が固くなってきた私には請求事務に少々時間がかかったものです。

これまで様々な岐路がありましたが、佑啓会という船の舵取りを理事長が誤ったことはありませんでした。それは一番近くで見えていたのでよくわかります。開所から比べると、相当大型船になりましたが、これからの三十年間の延長線上を安全航行していただけることを老婆心ながら願っています。

### 家族会活動

## 三十年の歩み

竹内 正明

私は、渡部さん(故人)、山田さんに引き続き家族会会長を仰せつかって竹内と申します。あまりにも長すぎてはつきりとは覚えておりませんが、役員在任期間はこれ二十一年くらいになるかと思ひます。家族会活動の中で、内容の濃いものをリストアップすると環境整備や作品展への対応、研修旅行への参加等々だと認識しております。



地域の環境整備(和田浦)

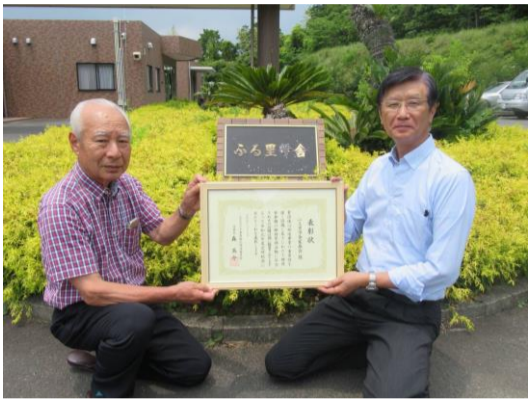
まず、環境整備ですが、当初は市原のみで実施されており、その後和田浦、蔵波でも行われるようになりました。その頻度は今とさほど変わらず、年間七〜八回だと記憶しております。また、参加人数も今よりはるかに多く、毎回六十〜七十人程度の方が作業に汗を流しております。今は家族会への入会も少なく加齢による影響からか参加人数は多くても三十〜四十人と以前に比べれば半分程度に減りました。最初の頃の環境整備は、作業終了後に今の工芸棟あたりで慰労会があり、役員の人かとは作業班と慰労会の準備に分かれ、飲み物の買い出しや食べ物、セット等に走り回ったのを覚えております。今では考えられませんが、当時はアルコールも出しておりましたので酔っぱらう方もおられ、その

後何回かの開催の後、慰労会は中止になった思い出があります。



特に大変だった環境整備は、天皇陛下(当時の皇太子殿下)がふる里学舎へ視察に来られた時の環境整備です。里見理事長より家族会に対して周辺整備の協力要請がありました。皇室が民間の施設に視察に訪れることはあまり聞いたことがなく、それだけふる里学舎の評判が周りに知れ渡っていたと理解をしました。

警備の関係で、法面に生えている竹や雑木を広範囲にわたり刈り取る作業で、毎週ごとに竹刈り・雑木の伐採を実施した記憶が頭に残っております。今でも何も手を付けられない場所のため、密生した親指ほどの太さの竹は刈払い機で切ってもなかなか切れず苦労しました。上部には藤や葛の蔓が絡み合い一日作業をしてもほとんど進まず、視察日まで本当に間に合うのかとても心配でした。勿論、職員の方も都合のつ方が総出で竹刈りや刈り倒した竹を法面の下まで引っ張り出す作業等に汗を流し、何とか間に合わせる事が出来ました。



治山林道事業功績者表彰

また、和田浦では環境整備の日に状況に応じて丸山方面に通じる一七kmの林道整備もしており、作業面積が広い時間内に完了することが出来ない事もありましたが、長年に亘り林道整備に取り組んできた事で、令和元年に家族会が公益社団法

人千葉県緑化推進委員会から表彰を受けました。また、昨年はふる里学舎和田浦が、国土交通大臣賞を受賞しております。



アリオ作品展の様子

次に作品展への対応ですが、これはふる里学舎で生産、製造した物品を販売するお手伝いです。以前は産業祭(姉崎産業祭 五井臨海祭り 八幡臨海祭り 姉崎門前市)や各イベントでの販売が主流でしたが、最近ではドンキホーテ、ユニモ、アリオ市原、イオン等のスーパーでの販売、市役所等が増えており、以前に比べたらボランティア参加者もかなり増えております。

ただ毎回の顔ぶれも同じ人が多く、今後は各人の積極的な参加に期待するところです。

研修旅行ですが、例年秋に計画されており県内各地の同業施設を見学させてもらうようにしております。施設の内容(利用者の障害程度 年齢設備の状況 施設の方針等)により、運営方法も様々で大変勉強になっております。これらの活動は今後も継続して年間行事に組み込み、多くの家族会参加者に利用してもらいたいと考えます。

ただ、残念なことにコロナの影響でほとんどの行事が実施できず、家族同士あるいは楽しみであった職員との交流の機会がなくなっているのは、本当に残念です。

三十年を振り返るといろいろなお話がありました。学舎の発展の一方家族会のあり方も今後の課題ですが、ふる里学舎とともに成長しなければならぬと認識しております。

(ふる里学舎 家族会会長)

### ふる里商店

## オープン!!

岩瀬 瑠治

令和四年五月一日に浦安市の若潮公園にて「ふる里商店」がオープンしました。



オープン初日!

佑啓会初の常設店舗で、毎週月曜日を除く十一時〜十四時で営業をしています。現在はパンとジャム、かき氷を中心に販売していますが秋からは、焼き芋など季節に応じた商品を現在、検討中です。オープンまで約一ヶ月、開店に向けて準備をしてきた当時から、「新しいお店が出来るの楽しみ」、「やっとお店が開くのですね」、「どういった商品があるのですか?」と地域の方から温かい声をかけていただき、準備に熱が入りました。準備は作品展委員会を中心にレイアウトや外装を考え、必要物品の搬入など、多くの方から力を頂きました。私は今年度初めて作品展委員会の業務を行ったため、経験もなく、初めての連続でした。お客様が目に入りやすい位置への陳列や、販売員としての心得など今まで意識することがなかった世界に入り、刺激を受けました。オープン当日はGW真っ只中。期待と不安を抱えながらいざ開店時間を迎えると商店前には多くのお客様が並んでくださり、オープン後も客足が途絶えることなく、開始から二時間でパンがほぼ完売。かき氷についても一日二〇〇杯を超える勢いでした。

ふる里商店の客層は小さいお子さんを連れたファミリー層だけではなく、立地もあり、通学や通勤の方、ラウンジやウォーキング中の方にも立ち寄っていただけることが増えていきます。若潮公園は交通公園とも隣接しており、小さい子でも運転できる四輪車、バッテリーカー。また、ポニーやラビットなどの動物も飼育されており乗馬体験やふれあいコーナーも定時開催されている小さい子どもから大人でも楽しめる公園となっております。事業所内の浦安市出身の職員は、「私が小さい時から人気でよく連れて行ってもらった公園。今では自分も子供と一緒に遊びに行っています。」と話しており、昔から地域住民に愛されている公園であることを実感します。



店内の様子

パンやジャム等を販売しています!

オープンしてから三ヶ月が経ちましたが、順風満帆なことだけではありません。天気が良くても暑すぎても来ない、今日は涼しげでもお客様が来店が見込めるかなと思うとゲリラ豪雨と、ちょっとした天候の変化で人の流れが変わることを感じ、販売の難しさを痛感する日々です。また、曜日や時間帯によって売れ筋というのにも異なっています。平日ですとラウンドパンが鉄板の人気です。「毎朝家族で食べているの」「前回チョコがおいしかったから今回はチーズにする」など直接お客様の声を聴かせていただけるのも嬉しく思います。わざわざ私たちのパンを買いに足を運んでくださる固定客が増えていく証だとも感じています。週末になると、総菜パンやお子様向けの菓子パンが人気です。法人では

計六事業所でパン製造科があり、定期的に、品質のチェックや新商品開発のための会議を行っています。特に新商品は各事業所が採用されるよう、原材料や味、形、商品名までも練りに練ってプレゼンに臨みます。その熱意に伝えるためにも、常々法人で言われている「作るのは担当者しかできないが、売るのは全員で」とおり、作品展委員としてこちらにも力が入ります。ちなみに、七月の新作に採用されたのは我が浦安パン科考案の「チョコバナナパン」でした。もちろん、公園に来るお子様たちをイメージしながらの開発でしたので、販売開始と共に沢山お買い上げいただきました。更には商店限定「冷やしチョコバナナパン」や「冷やしシューパン」も好調です。「次の新作は?」とのお声も頂いてますよ、パン科の皆さん!

今回、ふる里商店のオープンを通して、地域住民の方々との交流の場を作る機会ができたことがとても大きいと感じています。販売は職員だけでなく、利用者にも参加してもらっており、地域社会の中で活躍する大切な場となっています。この場をさらに発展していくためにも佑啓会が大切にしている物づくりに思いを込め、浦安の地でも「ふる里」の名を多くの方に知っていただけるよう取り組んでいこうと思ひます。

ふる里学舎浦安も事業を開始して三年目。コロナ禍で地域との交流の制限もある中、ふる里商店が浦安の皆さんにとっても「ふる里」になるよう頑張っていきたいと思います。

(ふる里学舎浦安職員)

### 編集後記

少しづつ過ぎやすい季節になってきました。今年も家族会の方々からスイカを頂き、スイカ割り大会をしながら利用者さんとともに夏を満喫することが出来ました。

新しい季節の始まりに心躍らせながら佑啓121号をお届けします。  
(支援員 五十嵐美紀)